

「下地島空港活性化協議会」を開催しました

～上半期過去最多の利用者数記録、更なる利用者数・リピーター増加に向けて官民一体で取り組みます～

下地島空港活性化協議会(会長:座喜味一幸)(※1)は11月29日(水)に第14回「下地島空港活性化協議会」を開催しましたので、お知らせします。

【「第14回 下地島空港活性化協議会」における主な報告・協議事項】**① 下地島空港の現況**

- ・ 2023年度は4～10月全ての月で過去最多であった昨年度同月を上回る利用者数を記録、結果、上半期(4-9月)の利用者数は過去最多の約25万人と昨年の約18万人を大きく上回った。
- ・ 8月は最大1日7便の定期便が運航したこともあり、2019年3月の開業以来初となる月間利用者数5万人超を達成。
- ・ 国際線再開・新規就航に向けて東アジアを重点市場と定めた国際線誘致営業活動の推進。

② 羽田発着枠政策コンテスト関連

- ・ セルフモニタリングとして実施している空港利用者アンケートの結果報告。
- ・ 東京のみならず北海道から福岡まで全国各地で実施した宮古島プロモーションイベントの報告・振返り。
- ・ 冬季閑散期の集客施策のひとつであるスポーツ合宿についての最新の誘致状況の確認、協議。

(※1) 本協議会は、宮古諸島の受入環境整備や下地島空港の航空路線プロモーションなど、下地島空港活性化に資する各種事業の立案並びに実施することを目的として、2020年8月に宮古島市、沖縄県、(一社)宮古島観光協会、宮古島商工会議所、下地島エアポートマネジメント株式会社にて立ち上げた組織です。

第14回協議会の冒頭、会長を務める宮古島市の座喜味市長より以下の通り挨拶がありました。

「令和5年度10月の宮古島市入域観光客数は約10万4千人と今年度最多の人数であり、下地島空港の利用促進による影響も大きな要因のひとつだと感じている。10月から11月にかけて宮古島市や宮古島観光協会が台湾で観光イベントへの出展や物産展の開催等のプロモーション活動を実施していることも踏まえ、宮古島の更なる活性化のため国内線の利用促進に加えて国際線誘致に向けた積極的な協議を行いたい。」

その後、下地島エアポートマネジメント株式会社より下地島空港利用状況について報告がありました。

- ・ 2023年夏期スケジュールの運航状況
- ・ 2023年冬期スケジュールの運航計画及び運航状況
- ・ 利用者数推移
- ・ 今後の航空営業戦略、既存路線利用促進に向けたプロモーション活動
- ・ 航空貨物取扱状況
- ・ 国際線誘致に向けた営業状況

続いて、協議会メンバーにて以下内容が行われました。

- ・ 下地島空港の活性化に向けた航空路線の維持・拡大に関する施策についての意見交換。
- ・ 8-9月の空港利用者のアンケート結果の報告を行い回答者の半数以上が2回目以上の来島、また1年以内に再訪していることから、更なるリピーターの獲得及び訪問頻度拡大に向けた施策の協議。
- ・ 冬の閑散期におけるスポーツ団体の誘致、スポーツイベントの計画についての取り組みの確認。

本協議会は、今後も官民一体となって下地島空港活性化に向けた施策を立案・推進し、宮古諸島のさらなる活性化を目指します。

【第14回下地島空港活性化協議会の様子】



■ 第14回「下地島空港活性化協議会」概要

日時： 2023年11月29日(水)15:00~16:30

場所： 宮古島市役所会議室

出席者： 「下地島空港活性化協議会」会員

座喜味 一幸 宮古島市長(協議会会長)

長濱 為一 沖縄県宮古事務所 所長(協議会事務局)

根路銘 康文 宮古島商工会議所 会頭

平山 茂治 (一社)宮古島観光協会 専務理事

佐藤 渉 下地島エアポートマネジメント株式会社 常務取締役